

第5回知立市総合計画審議会 議事録

令和6年6月11日(火)

午前10時～正午

知立市中央公民館 2階 中会議室

【次第】

1. 基本構想(素案)について
2. 基本計画(重点戦略)関連施策について
3. その他

【出席者】(敬称略・順不同)

鈴木誠、坂本真理子、高橋敦子、永井淳子、三宅守人、新美文二、越智さや香、高木香津恵、松田斉、野本照人、甲斐春美、山下徹也、竹内博之、石原國彦

【欠席者】(敬称略・順不同)

三浦祥志

【事務局】

企画部長、企画政策課長、課長補佐兼地方創生 SDGs 係長、地方創生 SDGs 係主事

【議事概要】

進行:会長

1. 基本構想(素案)について

事務局より、資料について説明

鈴木会長	・委員から特にご意見はないようなので、前回の指摘事項が反映されているものとし、この方向で進めていただけたらと思います。
------	---

2. 基本計画(重点戦略)関連施策について

事務局より、資料について説明

鈴木会長	・ありがたい姿の実現に向けて必要な関連施策・事業をイメージしていただくための資料でした。漏れている視点や表現の修正などがあれば、ご意見をいただきたく思います。
竹内委員	・施策は理想的だと感じますが、実現するために必要な予算のイメージが分かりづらいと思います。
事務局	・今回の資料は、第6次総合計画から実施しているものを含めて、俯瞰的・体系的に整理しています。最終的には、今後3年間の具体的な取組を記載する「実施計画」の中で予算と連動しながら、検討していきたいと思います。
高木委員	・継続事業と新規事業の区別が明確になると良いと思います。
鈴木会長	・施策を文章化する際に、継続や新規などの表現も組み込めると良いと思います。
新美委員	・子育て施策の中に家庭での教育に関する記載がないと感じました。社会全体で支援していくことも重要ですが、家庭での教育を丁寧に行うことも必要だと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる施策で行政頼みになると、行政に膨大な予算や人材等が必要になってしまいます。地域の組織に権限移譲を行い、意欲のある市民が活躍して地域づくりを行えるようにすることも重要だと思います。まちづくりへの参画が知立市への誇りや愛着の醸成にもつながります。
鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化が進む中で子育ての社会化は重要になっていますが、新美委員が指摘された視点の施策があれば記載を考慮いただきたいと思います。 民間組織との協働については、実施計画の中で具体化する際に考慮いただければと思います。
石原委員	<ul style="list-style-type: none"> 理想的な施策なのでしっかりと実施できると良いと思います。 知立市では子育て期や持ち家購入時に転出する人が多いという現状があり、この世代が住みたいと思うような取組が必要です。 すでに実施されている施策については、これまでの取組状況や課題を踏まえて、どのように変更していくのかを明確に示すと良いと思います。 駅前開発ではソフト面のみではなくハード面に関する取組も必要だと思います。駅北側の空き地の活用やパティオ池鯉鮒周辺の開発なども含め、各施策の実効性を高めるための土台となるハード面の検討もしていただきたいです。 財源確保の方法の1つとして企業誘致が考えられます。今年度からオフィス誘致の補助金が開始されたと思いますが、トヨタ関連企業などのオフィスを誘致することも1つの方法ではないでしょうか。オフィスが立地することで昼間のにぎわいも創出されると思います。
越智委員	<ul style="list-style-type: none"> 持ち家の購入にともなう居住地選択では、保育園へのアクセスに加え、入園先となる保育園の決定までにストレスが少ないことも重要です。早い段階で、妊娠・出産から職場復帰までの一連の見通しが立っていることが安心につながります。関連施策に含まれているかもしれませんが、今回の記載ではそのあたりが見えづらいと思います。 個別の事業については、早期適応教室推進事業に加えて、早期適応指導教室(むすびあい教室)も重要な事業なので、記載していただければと思います。 知立市は愛知県内でも外国人の子どもが多い地域ですが、外国人の子どもの不就学の状況について実態調査が行われていません。学齢の途中で転入してきた子どもは確認が漏れている可能性もあります。まずは実態を把握したうえで、取組を検討する必要があります。
鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の子どもや外国人の子どもの健康対策は、国も力を入れており、今後のまちづくりにおいて重要な点だと思います。
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる人に寄り添った総合計画であってほしいと思います。高齢者や障がい者など、弱い立場にある人への施策が十分ではないです。高齢夫婦のどちらかが亡くなり、施設へ入所したことをきっかけとして、知立市を出る人も多くいます。知立市は介護予防事業に力を入れているので、それらについても記載いただくと良いと思います。

	<ul style="list-style-type: none"> 定年延長の影響もあり、民生委員等をはじめとした地域活動の担い手不足が加速しています。地域で支えるという方向性は重要ですが、実際にできるのだろうかという感覚もあります。
坂本副会長	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画に記載した方針が各個別計画に引き継がれる必要があると思います。すべてを総合計画に記載することは難しいですが、各施策で重視する視点を記載し、個別計画策定の際にしっかりと考慮してもらうことが重要だと思います。
甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> 雇用、経済、居住の他に、文化に関する施策も重要だと思います。今回の資料では文化施策が少ないため、文化財の活用に関連した取組なども記載してはいかがでしょうか。
山下委員	<ul style="list-style-type: none"> 記載の内容は他の自治体でも実施されている施策が多いと思います。これらに加え、知立市ならではの施策を設けることで、居住地として選択され、住み続けたいと思われるまちにしていく必要があると思います。 例えば、自動車業界で働く人が多いことを踏まえ、夜間保育や企業内託児所への支援を充実させることなども考えられます。
野本委員	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、公立保育園と私立保育園ではおむつの処分対応の違いがあるため、サービスを平等にしていくといった方針を記載すると、個別計画で具体的に検討してもらえないのでしょうか。
永井委員	<ul style="list-style-type: none"> 平成の時代に福祉サービスは大きく充実しました。国の様々な子ども施策があることで、18歳になるまでの間、以前と比べれば親の負担も軽減されてきていると思います。一方で、サービスや支援を前提とした生活になってしまい、親の関与や対応力が弱くなるという懸念もあります。これは障がい分野以外でも同じで、すべてを行政に依存してしまうと、長期的にみて問題も生じると思います。経験やノウハウのある市民が地域で支援し合うような取組も進むと良いと思います。 ピクトグラムやリスキリングといったカタカナの言葉は、人によっては理解しづらいと思うので、解説などがあると分かりやすいと思います。また、継続事業と新規事業の区別を明確にしていいただければと思います。
松田委員	<ul style="list-style-type: none"> 関連施策や想定事業は細かく考えられており、これらを遂行することで目指す姿に近づくとと思います。 子どもを地域で支えるという点について、子ども会やPTAの担い手が不足する中でどのようにしていくのでしょうか。地域での取組を後押しするために、行政が経済的支援をしたり、意欲ある人材を養成するなど、地域と上手く役割分担をして実践できると良いと思います。
石原委員	<ul style="list-style-type: none"> マンションなどの新たな住まいを作るだけでなく、空き家活用の視点も重要です。各施策を展開する場として、空き家の活用が考えられます。例えば、空き家を活用して、より身近な場所で子育てを支援できるような仕組みなどがあると良いと思います。
新美委員	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術が普及することで効率化が進み、人々に時間の余裕が生まれると予想されていましたが、実際には以前よりも忙しくなっています。なるべくシンプルに考え、自分でできることは自分でやるという大きな方向性も重要であると思います。

鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> • 企業を退職した人などが地域づくりに参加し、協働していくことは分野共通の方向性であると思います。具体的な実現方法についても今後ご意見をいただければと思います。
新美委員	<ul style="list-style-type: none"> • ノウハウを持った人材と一緒に地域づくりを行うような仕組みを検討する必要があります。人口減少の中で行政に頼ってばかりではバランスが取れなくなります。市民が主役になれるようなまちづくりを進めてほしいと思います。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • すべてを行政が実施することは難しいため、既存事業をどのように改善していくかを含め、効果的な取組の実施に向けて具体的な連携方法等を皆様と検討していきたいと思います。 • 新規事業や駅周辺のまちづくりについても、計画の中でどのように表現していくべきか検討してまいります。 • 企業誘致は税収の面でも重要であると認識しています。今年度よりオフィス誘致の補助事業を開始しています。補助率は県内でも有数の水準であるため、上手く活用していきたいと思います。
坂本副会長	<ul style="list-style-type: none"> • 本日は大きな方向性から具体的な施策まで、様々な議論がありました。地域との連携の重要性も認識できました。シンプルに考えるという観点では、部署横断的に必要な取組を検討することも重要だと思います。 • サービスや支援の受け手側にいると、新たなものを創出する喜びなどは実感しづらい面もあるかもしれません。必要な人にはサービスや支援がしっかりと提供されながらも、地域と役割分担しながら今の時代に合った地域づくりのシステムを考えていくことが重要であると感じました。様々な分野の人材不足をはじめとした、新たな課題にしっかりと向き合うための総合計画になることを望みます。

3. その他

事務局より、策定スケジュールと次回以降の会議日をお知らせ

第6回 令和6年7月9日(火) 午前10時～正午 (中央公民館2階中会議室・リモート併用)

第7回 令和6年8月7日(水) 午前10時～正午 (中央公民館2階中会議室・リモート併用)

第8回 令和6年11月6日(水) 午後2時～午後4時 (市役所2階第2・3会議室・リモート併用)

事務局より委員報酬のお知らせ

以上